

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.28

会員の皆様へ

今年のノーベル賞に日本人では大村先生と梶田先生が選ばれました。大村先生は土中の微生物から寄生虫に効果のある抗生物質「エバームクチン」を発見し熱帯地方の風土病に効く薬として実用化し、今までに3億人も救ってきた功績が授賞理由だそうです。商品名は「イベルメクチン」。最初は家畜用だったということで、もしやと思い愛犬のフィラリア予防薬の成分を確認すると、やはり「イベルメクチン」が主成分でした。大村先生の発見した薬は意外と身近なところで役立っていることを知り、驚いた次第です。

大村先生はこの薬で得た多額の特許料を後進の育成や研究に惜しげもなく使っており、こちらでも尊敬すべき人物だということです。その一方で、くい打ちのデータを改ざんして施工した結果、マンションが傾いた事件や、防振ゴムの試験データを改ざんし続けたメーカーが報道されています。自動車メーカーの不正プログラム問題も社会に大きな影響を与えています。

私たち技術士は現場の第一線で、安心・安全な暮らしを支えています。不正をしない、不正を見逃さない高い倫理観を持って、日常の業務にあたる責務があります。そのことを再確認させられる出来事です。

このニュースレターは会員相互の情報交換を目的に、会の活動や会員個人のさまざまな活動をお知らせするものです。本号では平成27年6月から9月の活動を掲載しています。また、当会では随時、会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 創立 12 年第 1 四半期の主な活動と今後の活動の拡大に向けて：幹事 加藤行勝	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会	3 ページ
■ CO2環境対策技術研究会	4 ページ
■ 部会報告	5 ページ
活動計画	7 ページ
■ 活動計画全般	7 ページ
■ CO2環境対策技術研究会	7 ページ
技術士第二次試験合格者から	8 ページ
■ 「技術士受験について」：大田睦夫さん（衛生工学部門）	8 ページ

■ 創立 12 年第 1 四半期の主な活動と今後の活動の拡大に向けて

：幹事 加藤行勝(経営工学部門)

今期(7月～9月)の主な活動として、前年に引き続き、大学側のご協力により、2回目の技術士一次試験の模擬試験を実施しました。模擬試験は9月26日(土)に行われ、3年生を中心に88名の学生が試験を受けました。昨年12月に学生の技術士一次試験合格者が全国1位となった要因の1つとして模擬試験の実施があったと考えられ、今年度もその効果を期待しているところです。



これまでの追う立場から、今後は追われる立場となりましたが、プレッシャーを打破して学生全国1位の座を維持していくことが今後の課題であると考えます。

また、継続的な活動として今年で5年目になる「技術者倫理」の講義が、9月23日(水)からスタートしました。

中大技術士会発足から12年目に入りました。私自身が中大技術士会に参加させていただいたのは、2008年にCO2環境対策技術研究会に参加してからで7年目になりますが、この7年の間に活動の幅が広まり、充実・深化してきたことを痛切に感じます。

各学科の研究室との交流(太平洋ソーラー発電、ミミズロボット等)、学員支部会への昇格等は先輩の幹事をはじめ関係者の努力の賜物であります。

私事ですが、私は歯科医療機器メーカーで永年品質保証部門に所属した関係で、一番関連の深い経営工学部門(生産マネジメント)を取得しました。経営工学部門は、例えば建設部門等と異なり、高度な専門技術者というイメージでなく、どちらかという管理技術をメインとしています。

品質保証部は社内の各部門との接触が多い部門で設計、マーケティング、生産、営業およびエンドユーザーと社内外との関係が深い部門であります。主として、品質保証に関する仕組みづくり、海外を含めた関係会社の品質保証に関する推進の指導、統計的手法の活用推進、デミング賞取得支援等を実施してきました。

さて、中央大学は総合大学であり、その利点を活かした活動ができれば、幅が広がり、双方向で助け合うことが可能であると考えます。年初の巻頭言で内藤会長より、重点実施事項の1つとして、法曹会や公認会計士会との連携を強化することが掲げられました。

先に述べたように、中大技術士会として学生を支援することに関しては、これまで数々の成果をあげてきましたが、今後は、中大法曹会・公認会計士会との交流を含めた学内の支部間の交流を活発にして成果をあげることが期待されているのではないかと思います。

他の高度な技術部門を取得している幹事より、かなり文系に近い立場にいると勝手に思い込んでいる私としては、今後この面の交流で貢献できればいいと思っていますので、みなさんのご支援をお願い致します。

■ 幹事会

本会では、概ね月に一度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学会役員室か会議室で行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。

役員・幹事一同お待ちしております。6月以降に開催された幹事会の内容を報告します。

(文中敬称略)

行事名	開催日程	活動概要
平成 27 年度 第 3 回幹事会	6 月 25 日 (木) 18 : 00 ~ 19 : 15	<ul style="list-style-type: none"> • 会長挨拶：梅田法義氏 (S44 土木工学科卒) を新幹事として迎えたことが紹介された。 • 幹事役員任務が確認された。役員人事互選に関して、内藤会長、小林、武安、坂林各副会長、林幹事長が承認された。 • 学会全国支部長会議報告が内藤会長からあった。 <ul style="list-style-type: none"> ○他大学が都心回帰、新学部設置など受験生獲得を図るなか、理工学部の高層化構想が浮上している。 ○学会支部として活動が多岐にわたっており、各幹事諸氏に役員のサポートをお願いした。 • 総務部会報告： <ul style="list-style-type: none"> (1) 坂林副会長は大学支援部会長(技術士ガイダンス担当)に就く。 (2) 会計担当を染谷幹事をお願いする。 • 広報部会報告： <ul style="list-style-type: none"> (1) ニュースレターを7月末リリース予定。 (2) 各部会報告を7月中旬まで小柳幹事に送ること。 • 大学支援部会報告： <ul style="list-style-type: none"> (1) 理工学部の全 10 学科に対して6月初旬から実施した。 (2) 平成 28 年度「科学技術と倫理」への講師派遣に関し、複数名に打診中である。(中尾幹事) (3) 「筏プロジェクト」は、國生先生の後任として平川先生を検討中である。 (4) ミミズロボットは、7月末開催の下水道展に出展予定である。 • 平成 27 年度活動組織を確認した。 <ul style="list-style-type: none"> ○総務部会：林、萩野、佐藤、志田、足立、染谷、小野塚 ○企画部会：武安、國島、加藤、大塚、佐伯、清水、松本 ○広報部会：小林、坂林、小柳、篠崎、伊藤、渡辺、今野 ○大学支援部会：坂林、小柳、中尾、佐藤(大技連)、鈴木(大技連)、藤森 ○名簿管理：志田(参与)に引き続き依頼を要請していく。 • CO2環境対策技術研究会： <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成 26 年度報告会(総会相当)を9月19日(土)に開催 (2) 第2回研究会を6月18日(木)、横浜市金沢水再生センター、南部資源化センターで実施した。

行事名	開催日程	活動概要
平成 27 年度 第 4 回幹事会	8 月 3 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部会報告 : <ul style="list-style-type: none"> (1) 模擬試験申込み者は 121 名で昨年の 147 名から減少した。 (2) 「筏プロジェクト」は、國生先生と平川先生を交えた顔合わせ会を 8 月 10 日開催。 (3) ミミズロボットは、下水道展に出展した。 (4) 学会に支部活動報告書と進路相談会 (技術士ガイダンス) 報告書を提出した。それぞれに補助金が支給される予定である。 ・企画部会報告 : <ul style="list-style-type: none"> (1) 定時総会報告を学会時報に投稿した。 (2) 第 7 回ホームカミングデーが 10 月 25 日開催される。 (3) 理工白門祭 (11/1 ~ 11/3) に参加申込み予定である。 (4) 法曹会との交流会は、法曹会が幹事担当であるのでその旨を連絡する。 (5) 次回講演会の講師に都市環境学科と電気電子情報通信工学科の先生を候補にしている。 ・広報部会報告 : <ul style="list-style-type: none"> (1) ニュースレター vol27 を発行した。 (2) 次号は 10 月の発行を予定している。 ・CO2 環境対策技術研究会 : <ul style="list-style-type: none"> (1) 第 23 回研究会は千葉大植物工場で 10 月 20 日開催予定である。 (2) 第 24 回研究会をクリクラで 12 月開催を計画している。 <p style="text-align: center;">H26 年度報告会 (総会相当) を 9 月 19 日開催。</p>

■ CO2 環境対策技術研究会

CO2 環境対策技術研究会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
平成 26 第 7 回幹事会 出席者 3 名	H27 年 7 月 23 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00 中大後楽園校舎 5310 号室	平成 26 年度活動報告、会計報告 平成 27 年度活動計画、予算 第 23 回研究会の日程 10 月頃で調整 第 24 回研究会の企画 クリクラを候補とする
第 6 回報告会 (平成 26 年度) 報告会参加者 17 名 交流会参加者 16 名	H27 年 9 月 19 日 (土) 中大後楽園校舎 3310 号室 14 : 00 ~ 17 : 00	村上会長「私たちの暮らしと化学物質」 —生活用品の化学— 大石副会長「CO2 吸収材の最新の研究動向」 佐伯幹事「人工光合成について」

■ 部会報告

○広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	メーリングリストおよびWeb名簿のメンテナンス実施した。
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.28作成、発行した。
HP新規掲載	① ニュースレターvol.27を掲載した。 ② 幹事構成を更新した。 ③ CO2環境対策研究会第5回報告会開催案内を掲載した。 ④ 第8回テクノロジー懇談会開催案内の速報を掲載した。
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。

○大学支援部会活動報告

項目	内容
「技術者倫理」講義	平成27年9月23日から平成27年度の講義を開始した。
第一次試験模擬試験の実施	平成27年9月26日(土)に在学生を対象にして第一次試験の模擬試験を実施した。

○その他の活動

行事名	開催日程	活動概要
「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」研究会	H27年8月10日(月)	<p>國生中大名誉教授、平川准教授他、中大技術士会7名が出席し、今後の進め方の打ち合わせを行った。</p> <p>今後少し時間をかけ、月刊「技術士」への投稿や情報収集を行うこととし、研究会として立ち上げるかは、平川先生が中大赴任の多忙が一段落した後に考えることになった。</p>

■ 技術士第一次試験の模擬試験結果報告

9月26日(土)に実施した技術士第一次試験の模擬試験について、2014年と比較して結果をまとめました。

1、実施内容

会場：後樂園校舎 5333 教室

日時：9月26日(土) 11:00~18:30

11:00~13:00 準備

13:00~17:30 模擬試験

17:30~18:30 まとめその他

2、参加者

模擬試験参加者：

2015年：88人（申込者122人。1名は、授業と重なり資料の受取のみ）

2014年：99人（申込者147人。適性科目の時84人で途中参加者や退席者あり）

2013年：71人

3、実施結果

合格点人数は、2014年と比較すると2名の増加となりました。

	2015年	2014年	2013年
適性科目	42人	58人	38人
専門科目	38人	32人	25人
基礎科目	60人	52人	48人
3科目	24人	22人	14人

2015年における
88人の構成
大学院：3人
4年：4人
3年：59人
2年：22人
1年：0人

4、平成27年の本番試験予想

平成27年の本試験合格者は、143人（模擬試験参加者99人の1.44倍）であったので2015年の本試験合格者は、88人の1.44倍として127人と予想されます。（12月16日（水）発表予定）
平成26年の各大学成績は、下記でした。

No	大学名	申込者数	合格者数
1	中央大学	224	143
2	日本大学	272	121
3	京都大学	102	87
4	早稲田大学	70	65
5	青山学院大学	93	61



5、その他

期待通り127人の合格者になった場合は、2年連続で国公立大学でTopとなります。
その場合、理工学部の有力な資格試験として大学パンフレットその他に掲載が可能かもしれません。

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ 活動計画全般

○企画部会活動計画

行事	日程	内容
ホームカミングデー	10月25日(日) 多摩キャンパス	「無料生活相談会」として出展する予定
理工白門祭	11月1日(日)～3日(火) 後楽園キャンパス	「無料相談会」として出展する予定
中大技術士会 平成27年第2回講演会	11月26日(木) 後楽園キャンパス	講師：都市環境学科 山田 正 教授
第8回テクノロジー懇談会	未定	
法曹会との交歓会	未定	今年は法曹会が幹事担当のため、法曹会で企画する予定

○大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
大学技術士会連絡協議会	H27年11月9日(月) 15:00～18:00	場所： 日本技術士会第2草手ビル5階A, B会議室 内容：総会・活動報告 講演：修習技術者支援委員会委員長 中大：山田正教授の講演実施予定を紹介

■ CO2環境対策技術研究会

CO2環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
第23回研究会	H27年10月20日(火) 12:00 つくばエクスプレス 「柏の葉キャンパス」駅 集合 見学・説明 13:30～15:30	千葉大学植物工場の見学 交流会：16:00～17:30 「流山おおたかの森」駅周辺で計画
平成27年第1回幹事会	H27年10月29日(木) 18:30～20:00 中大後楽園校舎5310号室	第23回研究会(千葉大植物工場)の報告 第24回研究会の企画 クリクラを候補とする

技術士第二次試験合格者から

衛生工学部門の大田睦夫さんから、技術士第二次試験合格体験談をいただきました。第二次試験合格を目指している方にとって大変参考になる話をありがとうございました。

■ 「技術士受験について」 : 大田睦夫さん（衛生工学部門）

電気工学科を卒業し、建築設備工事の高砂熱学工業へ昭和 52 年に入社し 30 歳近くまでは現場での工事を担当していました。電気科出身のため自動制御関連の部門を勧められましたが、全体のシステムが勉強したいと思い設計部門に移りました。以後定年で退職するまで設計部門で、いろいろな経験をしました。



平成 10 年 43 歳の年に合格しました。ちょうどドライルールの仕事を担当し、除湿機（産業用）の自社開発品の商品化を行う時期でした。

技術士試験の午前中の経験論文のテーマに、このドライルールを選びました。商品化の苦労した点などを中心にまとめました。午前中の論文は事前に準備できるので、合格への近道と感じました。私の場合は、業務内容も論文向きでありストレスなく論文の準備が出来ました。完全に暗記し、試験当日は何も考えずに書き終えました。時間が余って終わりました。

テーマの選定は特殊なものでもなくとも良いと思います。必ず仕事で苦労したことがあるはずですが、工夫した点や、問題解決の過程を書ければ良いと思います。切り口を少し変えてみると意外に平凡なテーマでも、いろいろと実務でのノウハウ部分があるものです。教科書で書いてあることと実際の仕事の違うことが多いと思います。そこを書かなければ意味がありません。試験会場でそれを考えていては、時間内に終わりません。

午後の問題は広い分野での常識を問われますので、対策が必要です。私が取った方法は業務で検討するとき、他の人に自分の言葉で説明するようにまとめるようにしました。プレゼンや教育の機会がある時に、教育資料となるように分かりやすく整理しておきました。空調設備も範囲は広いため短期間では無理ですが、業務で新しい知識にであった時に少しずつやりました。お客様へ説明するときにも、分かりやすくするための準備がこれにあたります。新しい技術や機器の情報に触れるときに、説明できるまで情報を収集し検討しておくことが重要です。自分のポケットへの蓄積が必要であり、沢山のポケットを持たなければなりません。

特にこの受験のために、受験勉強としてはやらなかったと思います。短期間でやるのであれば、過去問で対策する方法しかないと思います。

業務での経験で得た知識が生きてくるのではないのでしょうか、試験時間も長く試験の終わったときには頭の中は空っぽだったように記憶しております。自分のポケットの中身をすべて使って、問題に取り組みました。

今年で 61 歳となり、受験も遠い過去の事に感じます。現在は業務用の空調機メーカーである日本ピーマックで新しい機器のコンセプト作りなどを担当しております。

今後ともよろしくお願いたします、皆様のお話を楽しみしております。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2015 年 10 月号 中大技術士会 広報部会 発行